

## 六十カ所の事業所が協力

「白石でっち奉公」は、子供たちに仕事の体験を通して、社会生活への参加意欲を高めてもらおうと実施しているもの。白石区と同区ふるさと会の共催で、昨年に続いて二回目となる。今年も、白石中学校の生徒約四百五十人が総合学習の一環としてこの事業に参加した。生徒を受け入れた事業所は、同校周辺の商店や企業など六十カ所。でっち奉公は二日間にわたって行われ、初日は一年生、二日目は二年生が、それぞれ希望した職場に出勤した。

## 家計を支えている親に感謝の気持ちを忘れずに

今回の受け入れ事業所の一つ、(株)札幌多田水産では「屈強な男子」という条件で二人を受け入れた。生徒を直接指導した社長の多田健三さん(四九)は、「こっちゃんも本気だよ。」



▲今の中学生に大きな期待を寄せる多田さん②

半端な気持ちで仕事場に来てもらっては困る」と真剣な表情を崩さない。魚のラッピング作業では、「これじゃ売り物にならないぞ」と厳しい声が飛ぶ。多田さんは、やって来てすぐにうまくできないことは十分承知していると前置きした上で、「家計を支えることの大変さを知ってほしい。そして親への感謝の気持ちを忘れないでほしい」と狙いを話してくれた。この日、慣れない手つきで鮮魚を扱った八谷翔太君(四四)は、「魚をおろすのが難しかった。大人たちはとても大変な仕事をしているんだなと思った」とちょっと緊張した様子。そんな生徒の肩に手を当て「君たちは素晴らしい力を持っているんだから」と声を掛ける多田さんがいた。

## あいさつだけでもいいから何かを得て帰ってほしい

ボウリング場や映画館、ゲームセンターなどがあるスガイディノスでは、十人の中学生が働いた。ここでは、館内清掃をはじめ、ゲーム機の手入れやレンタルビデオの在庫確認などの仕事が行われた。一階にあるレンタルビデオ店の責任者中垣内孝治さん(三七)

## さまざまな場所で働いた中学生たち



▲介護老人保健施設で、蛍光灯の交換と清掃作業を行う中学生【コミュニティホーム白石】③



▶「食器を洗ったり片付けたりと、お昼時のレストランの調理場はさながら戦場のような【中国料理蘭白石店】



▲ガソリンスタンドでは車が入って来ると素早く飛び出してガラスふき【(株)イーグル】

中学生が職場体験をした場所は、病院、郵便局、消防署、理容室、不動産業者、温水プール、クリーニング店、薬局、自動車学校などさまざま。



▲「はしはこうして持つのよ」。食事の時間や遊ぶ時間、昼寝の時間もそばで付き添う【東白石保育園】



▲チェックアウトが済んだ部屋での清掃作業や、ステージ上に掲げる横看板づくりなどが行われた【ホテルリラ】



▲ゲーム機の中に置く景品の袋詰め作業。いかにお客さんをその気にさせるかがポイントになる【スガイディノス】④